資料２

# 菖蒲地区小学校の統合等について

令和8年度第2回久喜市総合教育会議

教育総務課

# 【概要】

# 菖蒲地区小学校の統合等について

## 児童数の将来推計、保護者の声、統合案を踏まえた検討状況

**子どもたちにとって、将来にわたり望ましい教育環境をどう確保するか**

菖蒲小学校　小林小学校　三箇小学校　栢間小学校　菖蒲東小学校

令和8年度第2回久喜市総合教育会議

教育委員会資料・各校保護者代表アンケート・要望書を基に生成AIによって作成

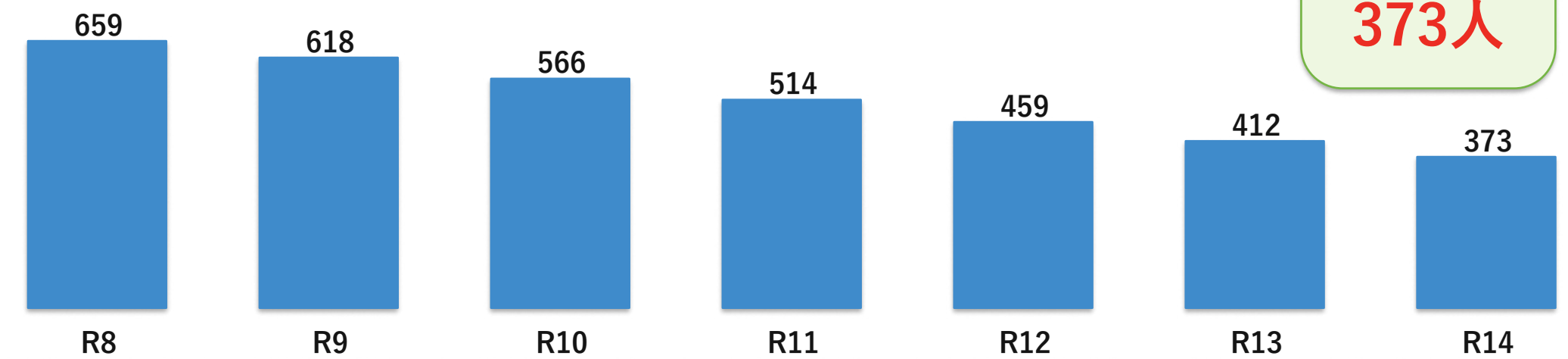
# 1 5校合計の児童数の推移と将来見込み（令和8～14年度）

● 少子化の進行により、児童数は今後大きく減少する見込みです。

## 5校合計の児童数の推移

令和8年度（659人）から令和14年度（373人）までに

**約43%減少**




令和14年度
5校合計
**373人**

7年間で 286人減少（約43.4%減）

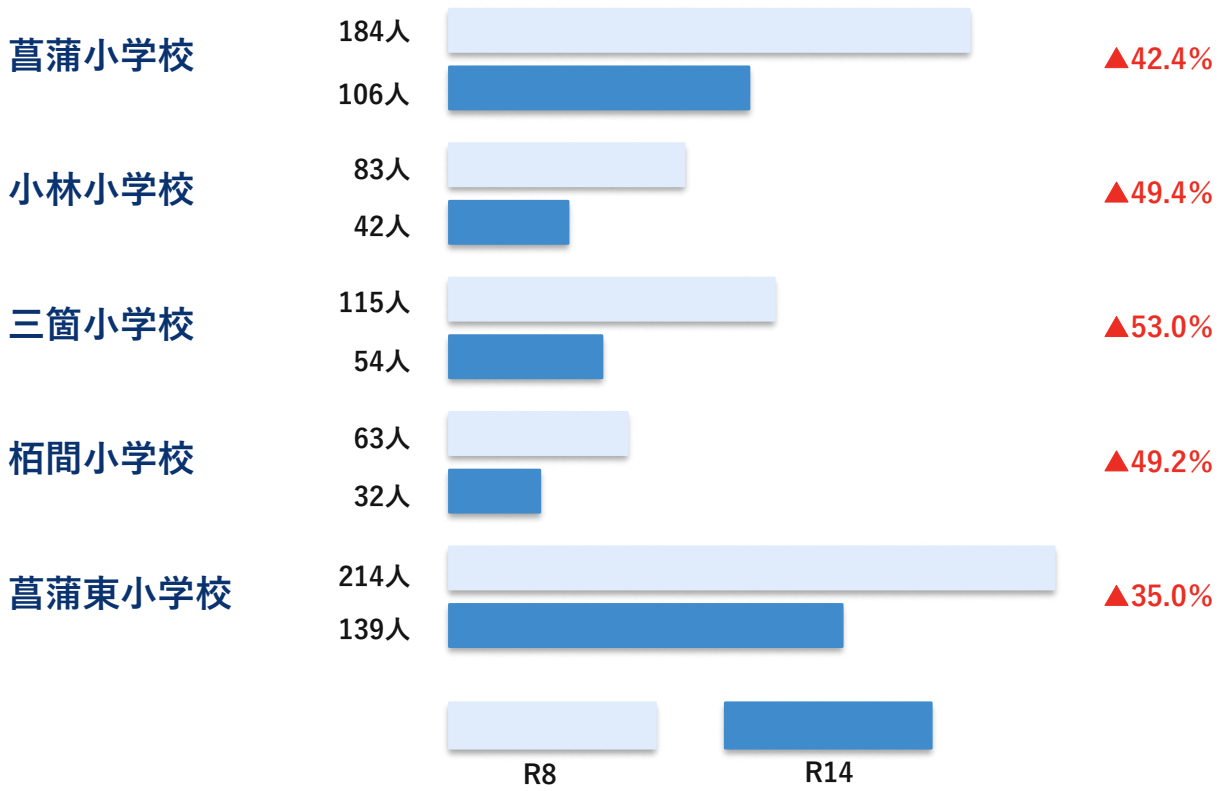
**まとめ**

✓ 5校合計の児童数は7年間で約43%減少　　✓ 各校の小規模化がさらに進む見込み

# 2 菖蒲地区小学校5校それぞれで児童数が減少

● 令和14年度には、菖蒲地区小学校5校すべてが6学級の見込みです。

## ① 令和8年度と令和14年度の比較




## ② 特に注目する点

**小林小学校**

83人 → 42人（▲49.4%）

**三箇小学校**

115人 → 54人（▲53.0%）

**栢間小学校**

63人 → 32人（▲49.2%）

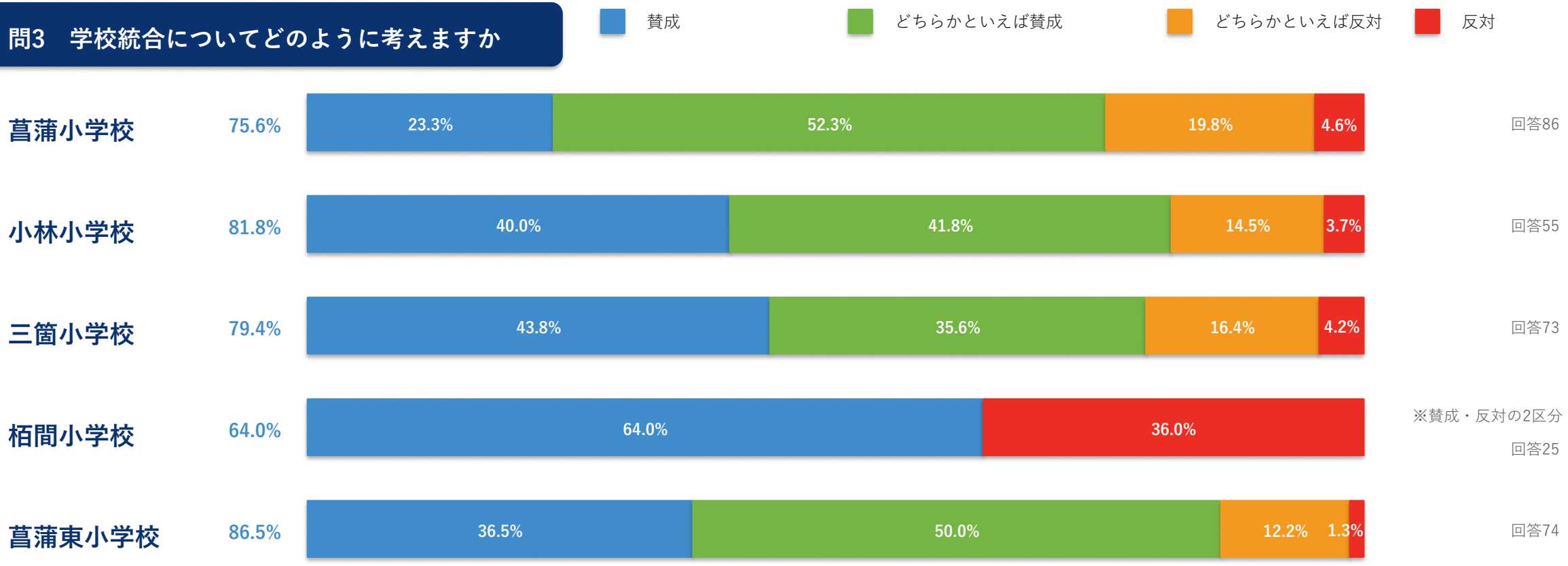
**まとめ**

✓ すべての学校で減少　　✓ 小林小学校・三箇小学校・栢間小学校は特に小規模化が顕著

# 3 保護者アンケート結果①　学校統合への考え

● 5校とも「賛成・どちらかといえば賛成」が多数を占める一方、慎重な意見もあります。

**問3　学校統合についてどのように考えますか**




左の％＝「賛成＋どちらかといえば賛成」の合計（栢間小学校は資料上の「賛成」64%）

**まとめ**

✓ 統合に肯定的な回答は各校で6割以上

✓ ただし、通学や環境変化への不安も併せて確認する必要があります

# 4 保護者アンケート結果②　学校ごとの主な意見

● 学校ごとに状況は異なりますが、「通学」「人間関係」「学校・地域への愛着」が共通した論点です。

## 菖蒲小学校

回答86／家庭数132

統合の必要性を理解する声がある一方、通学距離、学校の場所、人間関係、母校・地域拠点がなくなることへの懸念。

## 小林小学校

回答55／家庭数66

児童数減少から早急な統合を求める声。通学・学童・安全面、地域の特色、人間関係への不安。段階的統合への慎重意見も。

## 三箇小学校

回答73/家庭数89

小規模化への心配が強い一方、通学距離、環境変化、伝統・母校への愛着を重視。1校ではなく2〜3校程度の統合を求める意見も。

## 栢間小学校

回答25／家庭数46

スクールバス・見守り、丁寧な説明や学校見学を希望。統合時期は「3〜5年以内」とする意見が多数。現在の温かな雰囲気への愛着。

## 菖蒲東小学校

回答74／家庭数176

統合に肯定的な回答が多い一方、通学距離・学童・送迎への不安が強い。早期判断を求める声と、現状維持・複数校案を求める声も。

**まとめ**

✓ 各校の意見を一括りにせず、学校ごとの事情を踏まえ、対応策を示すことが重要です

# 5 保護者アンケートから見える共通の声

● 「統合の必要性」と「統合への不安」の双方が示されています。

## 小規模化への懸念

・人間関係が固定化する

・集団活動の機会が減る

・多様な友人関係を築きにくい

・人数減少への早急な対応を求める声

## 統合への主な不安

・通学距離・時間、安全面

・新しい人間関係への適応

・学校・地域の伝統や特色の喪失

・学童、送迎、学校行事への影響

## 求められている対応

・スクールバス等の通学支援

・丁寧な説明と情報提供

・子どもの心のケア

・統合方法・場所・時期の早期提示

**まとめ**

✓ **統合の是非だけでなく、「通学」「人間関係」「地域とのつながり」への具体的な配慮が重要です**

# 6 菖蒲地区小学校5校の保護者代表から提出された要望書

● 学校統合の方向性と、子どもたちへの具体的な配慮が求められています。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ① 方向性を早急に | 学校統合の方向性をできる限り早急に打ち出し、具体的な方法・時期を説明 |
| 2 | ② 複式学級を回避 | 複式学級の編制を避けるため、市費負担教員の配置を要望 |
| 3 | ③ 安全な通学手段 | スクールバス運行を含め、安全で負担の少ない通学手段と通学路の安全対策 |
| 4 | ④ 意見を反映 | 保護者アンケート等の結果、保護者・児童の意見を尊重し、検討の参考とする |

**まとめ**

✓ 「早期の方向性提示」と「通学・教育環境への具体的配慮」を並行して進めることが必要です

# 7 現在想定している学校統合の実施案

● **施設整備の規模と開校までの期間が大きな違いです。**

## 案1｜小学校5校＋菖蒲中学校を統合

義務教育学校または小中一貫校として、小学校から中学校まで一貫した教育を実施

【施設】既存校舎等を活用しつつ、教室不足等に対応するため増築

【期間】計画1年＋設計2年＋工事3年
→ 開校まで最短6年程度

メリット　：9年間を見通した教育
デメリット：時間・費用、通学負担

## 案2｜小学校5校を1校に統合

一定規模の小学校を維持し、教育環境の充実を図る

【施設】通級指導教室、特別支援学級、放課後児童クラブ等を含め一定の整備

【期間】計画1年＋設計1年＋工事2年
→ 開校まで最短4年程度

メリット　：案1より早期に実現可能
デメリット：通学負担、中1ギャップの可能性

**まとめ**

✓ **どちらの案でも「学校の位置・通学方法・施設整備・時期」を具体化して比較する必要があります**

# 8 検討にあたっての基本的な考え方

● **学校規模だけでなく、通学・施設・地域との関係を総合的に考えます。**

| | |
|---|---|
| **学校規模** | 一定の集団規模を確保し、多様な考えに触れ、学び合える環境 |
| **通学** | 小学校は概ね3km以内。超える場合等はスクールバス等を検討 |
| **学校の位置** | 面積、教室数、周辺環境、通学距離等を勘案 |
| **合意形成** | 保護者・地域住民・学校関係者へ必要性を十分説明し、相互理解を図る |

**検討から開校までの流れ**

**審議会で審議**
↓
**審議会による答申**
↓
**教育委員会が方針決定**
↓
**新校設立準備委員会**
↓
**新校開校**

**説明会や意見交換会は随時開催**

**まとめ**

✓ **教育環境・通学・施設・地域の4つの視点を共通軸として検討します**

# 9 久喜市内でも、統合には一定の準備期間を確保

● 方針決定後も、学校運営・通学方法・校名等の具体的な準備が必要です。

## これまでの市内統合事例

| 新校 | 統合した学校 | 準備期間 | 開校 |
|---|---|---|---|
| **江面小学校** | 江面第一小学校＋江面第二小学校 | 約2年 | R3.4 |
| **菖蒲中学校** | 菖蒲中学校＋菖蒲南中学校 | 約2年 | R4.4 |
| **鷲宮西小中学校** | 鷲宮小学校＋上内小学校＋鷲宮西中学校 | 約4年 | R8.4 |

**新校設立準備委員会**

方向性の決定後、学校運営・通学方法・校名等の基本的な事項について検討をします。

**まとめ**

✓ 早期に方向性を整理することが、十分な準備期間の確保にもつながります

# 10 総合教育会議で共有したいポイント

● 児童数減少への対応と、保護者・地域の不安への対応を両立させる必要があります。

## 「子どもたちにとって、より良い教育環境」を最優先に

### ① 小規模化は進行

令和14年度には5校合計373人。小林小学校・三箇小学校・栢間小学校では複式学級編制の見込み。

### ② 保護者の声を反映

統合を求める声と慎重な声の双方を踏まえ、通学方法・人間関係・地域への配慮を具体化。

### ③ 方向性を早期に整理

小学校5校＋菖蒲中学校、小学校5校の統合を比較し、場所・通学方法・時期を段階的に示す。

**まとめ**

✓ 審議会・保護者・地域との意見交換を重ね、子どもたちにとって、より良い教育環境について検討します